



これまで各地商工会議所で使用されている各地商工会議所のマークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染みやすいロゴマークになっています。ロゴは各地商工会議所青年部の英語名 (Young Entrepreneurs Group) の頭文字をとったものですが、同時に各地商工会議所青年部の持つコンセプト、若さ・情熱・広い視野をもった経営者 (Youth Energy Generalist) を表現しています。

日本 YEG VOL.45



平成19年2月号

発行 日本商工会議所青年部
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所 中小企業振興部内
TEL 03-3283-7847 <http://yeg.jp/>
編集 広報委員会
委員長 大谷 辰夫
副委員長 吉川 隆裕・根木 克己
委員 佐藤 浩之・高橋まゆみ・小野崎久雅
加倉井 巧・原田 嘉明・野田 雅之
河合 秀明・園 昇・森 徹
野島 進吾・東江 晴都

翔生を御覧になっている皆様、こんにちは。平成18年度、日本YEG会長を務めさせて頂いております國枝恭二と申します。今年度は「地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG」とのスローガンを掲げ、今日まで事業を進めさせて頂きました。このスローガンには日本YEGが各地域で何かをするという事ではなく、全国各地で積極果敢に街づくりに取り組む各YEGが故郷に元気をもたらす新しい風を巻き起こしてほしいという願いを込めております。そして日本YEGは地域で頑張るYEGのために役に立つ事業や情報を備えるのが使命と考え、今年度の事業計画を組み立てさせて頂きました。

その事業のひとつ、全国9ブロックにて行う会長会議運営の為、各地域に伺わせて頂きましたが、どこの街に行っても歴史と伝統に培われた個性豊かな地域の風景と故郷のために一生懸命活動するYEGの姿を見る事が出来ました。その姿を見るにつけ、やはり日本は豊かな故郷があってこそ素晴らしい日本という国になるのだとの実感をさらに強く持つ事となりました。

皆様もご承知のように現在の景気の状態は大企業や素材産業を中心に上昇を続け、かつてのいざなぎ景気を越える日もそう遠くはないとの事です。けれどもこの間の市場経済は地域経営を著しく疲弊させてしまいました。しかしそんな厳しい経済環境の中にあっても今、明確に生き残り発展を目指し、自らの責任で歩み出した地域も決して少なくはありません。

行政がスリム化と合理化を目指す今日ではかつてのように役所が主体となって地域の未来像を創り上げて

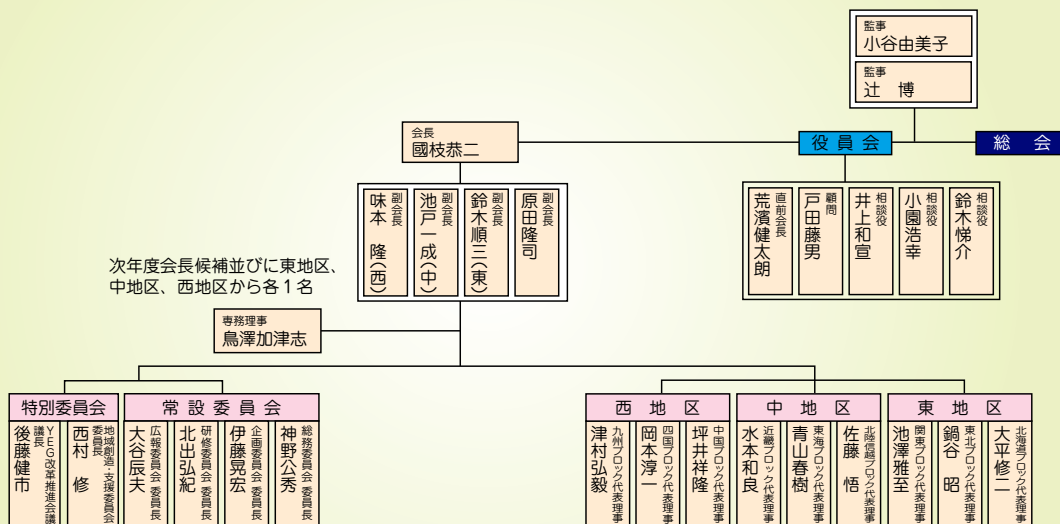
行くという事が非常に難しくなってきましたが、では誰が街の未来に責任を持つのか、それが地域の経済団体、商工会議所の本来の役割であると考えます。商売だけでなく地域という豊かで住みよいコミュニティの創造を目指し、行政と車の両輪としてしっかりと未来を計画、提案するのが商工会議所であり、我々YEGはその商工会議所活動の一翼を担うべき組織であります。YEGの今後の活動は地域にとってさらに重要な位置づけを持つと確信しております。

ビジネスプランコンテストやYEG大賞など街作りのアイデアやヒントがいっぱい詰まった事業が行われました。新たな取り組みとしては「故郷の新しい風会議」という国の若手公務員と地域の自律をテーマに本気で議論するディスカッションを開催しています。また、会長研修会では商工会議所の役割は何なのか、どういった仕組みで動いて行くのかを学び、これからの商工会議所のあり方やYEGの関わり方を問う会議もあります。いずれにしてもこれらの情報やネットワークが地域で頑張る各YEGが利用したいと考えたときにしっかりと提供できるものが持てるよう、これからの時間も日本YEG出向者一同、一生懸命努めさせて頂きますので皆様のご協力をよろしくお願い致します。



日本商工会議所青年部 (日本YEG)
平成18年度会長
國枝恭二

執行組織図



委員会紹介



総務委員会

委員長

神野公秀



本年度、総務委員長を務めます愛知県連刈谷YEGから出向しています神野公秀です。宜しくお願いします。総務委員会では全国399単会と日本YEGがより密に情報を交換できるようエンジェル・タッチの利用促進を図ると共に、7～8月にかけて、初めての試みとして電子

会員総会の開催を計画しています。『地域が造る日本の未来、故郷の新しい風YEG』日本の未来を造るため、故郷の新しい風を起こす皆様からの沢山のお声をお待ちしています。

●副委員長

佐藤 利明、野崎 隆文

●委員

石井 宏治、木村 卓洋、石川 博一、上野 勝弘、小川 明仁、阿部 博志、徳田 嘉彦、源 哲弘、小林 晃、篠田 典幸、名節 弘康、平井 湖、林 茂男、小川 博久

企画委員会

委員長

伊藤晃宏



平成18年度、企画委員長を務めます三重県連鈴鹿YEGより出向しております伊藤晃宏です。宜しくお願い致します。本年度企画委員会では、全国各地で行われる9ブロック大会・第26回全国大会大分大会(11/9～12)・第24回会長研修会いしかわ加賀会議(2007/2/16・17)

を主管される各単会と共に企画・調整をはかり、よりよい大会を目指します。また、全国大会・会長研修会議の本質の検討、各大会の手引書の見直しなど『地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG』の意味を理解し事業を展開していきたいと思ひます。

●副委員長

松本 和也、竹下 明伸

●委員

山内 毅、上原 庸生、尾島 洋、高橋 和也、渡辺 悟、今泉 教夫、大西 聡、小谷 知史、竹村 義隆、宮崎 省三、丸田 修

研修委員会

委員長

北出弘紀



18年度の研修委員会委員長を務めさせていただきます、北陸信越ブロック、石川県連、加賀YEGから出向の北出弘紀(きたでひろのり)と申します。18年度研修委員会では全国のYEGメンバーの実際に役立つ日本YEGならではの事業を実現したいと考えております。

まずはYEGメンバーの全ての皆様に参加できるビジネスプランコンテストの開催。第4回目を迎えるこの事業は、今から新しく起業したいという案件や、現在皆様が行っているビジネスの見直し、こういう会社にしてほしいという思いを、人前でプレゼンテーションすることにより、その中身や計画をより明確に浮き彫りにするための研修事業です。

他の参加者と競って全国大会のステージでグランプリの栄冠を得るもよし、専門家が指導するパワーアップ研

修会に参加して自身のスキルアップを図るもよし。但しこのメリットを受けられるのは参加したメンバーあなただけ!

ビジネスのプランは自由、申込みは無料ですので、「何かアクションを起こしたい!」というメンバーの方はぜひともお申込みを!詳しくは5月22日以降の日本YEGホームページでご確認ください。

他にもおなじみのYEG大賞の開催、YEGメンバー講師データベースの構築、昨年の東京サミットで大好評の翔生塾の開催と、メンバーの皆さんに役立つ事業が満載の研修委員会。詳細は随時お知らせしますのでどうかご期待ください。

●副委員長

高柳 力也、神谷 篤、田村 和男

●委員

菅原 清忠、山縣 敏史、石川 昭一、菊池 勝美、松井 則幸、鈴木 大介、田辺 俊明、坂井 一欽、増田英一郎、木村 和央、川那辺昭司、井谷 智子、川口 泰史、大辻 嘉衛、木島 純一、藤井 一也、平山 政彦、前原 嘉孝

広報委員会

委員長

大谷辰夫



島根県松江YEGより出向している大谷辰夫です。平成18年度広報委員会メンバーは混乱しながらもホームページ、メールマガジン、日商ビジネス広報誌「石垣」をスタートできました。今年度も購読を御願ひします。

「日本YEGって何しているの?」と思っているかたいませんか。そんなひとのために広報委員会は日本YEGの「情報公開」を進めています。

「私たちの活動を発表したい」「わが地域の楽しいイベントを告知したい」と思っているYEGメンバーのかた、ぜひ情報を送ってください。広報委員会は全国YEGメンバーのために情報発信と情報収集を行います。

今年は「YEGブランド」を会員以外に広めることも課題になっています。その方法としてメディアミックスの展開を検討していきます。ぜひご期待ください。

●副委員長

吉川 隆裕、根木 克己

●委員

佐藤 浩之、高橋まゆみ、小野崎久雅、加倉井 巧、原田 嘉明、野田 雅之、河合 秀明、園 昇、森 徹、野島 進吾、東江 晴都



地域支援特別委員会

委員長
西村 修



本年度当委員会では、「青年部」を取り巻く様々な問題に対し活発な議論を展開して頂く為に、商工会議所をより良く・より広く知るところから問題を提起させていただきます。そのために「商工会議所」「日本Y E G」の定義と目的を明確にし、その基本コンセプトを精査しつつ、全国の青年部未設置商工会議所に対して青年部の設置を依頼していくとともに、日本Y E Gの未加入単会に対する加入依頼を通して「今、我々が何を考え、何をしなければならないのか」という問題に対し共に考え行動を起こし、全国399の日本Y E G加入単会が522加入単会の連合会組織へと増強・発展することを目指します。次に青年部がそれぞれの地域や我々中小企業を取り巻く

諸問題を広く吸い上げ、全国規模の連合会組織としての強みをフルに生かし、行政府などに対し、意見・建議活動そして政策提言を行っていくよう啓蒙活動をしてまいります。

また各地青年部が展開しているいくつかの起業育成ツールをご紹介しながら、次代により良い地域づくりのために日本Y E Gとしてどのようなサポートができるのか共に考えてまいります。以上のように、全国各地で活躍する“Y E G”の皆様にとって「役に立つ委員会」を目指し、委員会メンバー一同1年間一生懸命努めさせていただきますので、よろしくご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●副委員長

菊池 亮、坂部 憲彦、中條 慎也

●委員

和田 郁夫、高石治一郎、大澤 寿伸、薩川 敏、小池 賢治、澤野 公一、増澤 義治、千賀 隆治、光枝 裕朗、吉原 洋二、杉本 昇、林 隆男

Y E G改革推進会議

議長
後藤 健市



帯広Y E Gから出向している後藤です。15年度は企画委員長、16年度は監事という役職をいただき、日本Y E G(当時は商青連)を内側から見てきました。その経験を活かし、18年度のY E G改革推進会議の事業を積極的に展開していきたいと考えています。それにしても個性豊かなメンバーが集まりました。私の舵取りで大丈夫かなという不安も若干ありますが、担当副会長の味本氏と連携しながら、楽しく、かつ実りある1年間を送りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

先日、帯広で日本Y E Gの最初の役員会がありました。北海道は非常に厳しい財政状況にありますので、皆さんどんどんお金を落としていただけただけでしょうか？帯広と言えば豚丼、じんぎすかん、お菓子。でもどこで食べても美味しいわけではありませんので、食べに行くときは帯広のメンバーに聞いてから行かれましたか？ぜひまた来て下さい。そのときはもっと美味しいものを紹介します。

●副議長

樽井 浩

●委員

梶野宗一郎、尾崎 仁、渋澤 健司、浅井 秀明、木下 徳泰、蟹江 康、西居 基晴、中谷 安伸、藤井 将登、山条 真嗣、矢野 義尚、立山 誠也、工藤 哲弘

呼称、表記の変更について

我々、全国商工会議所青年部連合会は、今まで「商青連」という呼称で又、表記を「日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会」としておりました。今年度、日本商工会議所にご理解を頂いた上で、全国の会員と一般の方にも解りやすい呼称、表記に変更するべく協議を重ねて参りました。

そして、呼称は「日本(ニホン)Y E G」、表記は「日本商工会議所青年部」と変更いたしました。(使用開始日：平成18年2月19日)

呼称につきましては、単会においても「〇〇Y E G」と呼ぶことが多くなり、Y E Gブランドの確立と広くY E Gを認知して頂くために決定いたしました。又、表記につきましては、「1つの団体の表記としては分かりづらく、長すぎる」などのご意見が多かったことを受け、短く分かりやすい表記に決定いたしました。

本会は全てのY E Gの連合体として日本商工会議所の方針を踏まえ、Y E Gのビジョンを内外に示し、Y E Gの持つネットワークを最大限に活かし、地域の枠を越えて全国的な交流を促進し、各地青年部の活性化をはかっていく中心的な組織であることを認識し、新しい呼称・表記で活動して参ります。

平成17年度 総務委員長 落司ひとみ





直前会長
荒濱健太郎

全国YEGの皆様 直前会長 荒濱健太郎です。

昨年度、日本YEG(商青連)では、「豊かな地域の創造! YEG Renovation!」のスローガンを掲げ、地域の視点で各事業を展開しました。地域あつての日本。地域を最優先に見つめた商青連活動こそが、時代背景から導き出される唯一の進むべき道だと考え、組織・活動の現状を見つめなおし、変えるべきは改革し、継続すべきはさらに進化を図り、効率的にかつYEGとそのメンバーの発展と「豊かな地域の創造」のために、より利用価値の高い組織となるようリノベーション(既存の構造を活用しながら改良を加え、新たな価値を持たせ共存させていくことを表した言葉)に取り組んで参りました。また、将来を見据え、年間事業サイクルの変更(会員総会の7月開催を含む全国大会、全国会長研修会の開催時期の変更)、全国商工会議所青年部連合会の呼称・

表記の変更とここ数年の課題に取り組み、役員会の決議を踏まえ、2月会員総会で報告致しました。

皆様のお力添えのおかげで、最後まで強い気持ちを持ち続け、なんとか職務を全うできたのではないかと感じています。この場をお借りして、皆様のご理解ご協力に対し、心から厚く御礼申し上げます。本当に一年間ありがとうございました。

会長として、春のブロック会議、全国大会、9ブロック大会、YEG東京サミット、そして全国会長研修会とまさに全国各地を訪問させていただき、懸命に企業活動を行いながら地域を支えているYEGの姿に触れて参りました。今、改めて、日本各地の地域に根ざしたYEGの価値とその大いなる可能性を実感しています。

本年度は、國枝会長の下、さらに深化した日本YEG(商青連)活動が展開される事と思います。スローガンには、「地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG」を掲げられています。昨年度と同じく『地域の視点』を大切にしたい素晴らしい活動が行われることと確信しています。私も全国各地のYEGから学んだ多くの貴重な経験、体験を基に、精一杯支えて参りたいと思っています。昨年度にも増してのご協力を心からお願い申し上げます。



副会長
原田隆司

平成18年度、日本YEG副会長の大役を仰せつかりました、愛知県豊田YEG原田隆司です。昨年の全国大会愛知大会では、7月の日程変更にも関わらず全国各地よ

り多くの皆様にお越し頂きました。改めて御礼を申し上げます。また、日程変更によって通常11月に行わなければならない大切な総会が、東京サミットと言う初の研修事業と併せての事業であったのにも関わらず、各単会の会長様始め、多くの会員の皆様にご参加を頂くことができました。重ねて御礼を申し上げます。ありがとうございました。いよいよ國枝年度が始まります、皆様にご迷惑が掛からないようにしっかり頑張ってお参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



副会長
鈴木順三

本年度、東地区と「地域創造・支援特別委員会」の担当をさせていただきます、青森県連、弘前YEGより出向致します“鈴木順三”です。

商工会議所活動はそれぞれの地域の実状にあった活動をすべきだと考えております。当然、商工会議所活動の一翼を担うYEG活動もそれぞれの“地域”の視点での

活動をすべきであって、日本YEGがこうしなさい、あしなさいと言うべきことではありません。“地域”の問題はその地域の人々の知恵を出し合って解決していくのが本来の姿です。そのお手伝い、例えば、各地域でのまちづくりの成功事例などの情報提供などをするのが、日本YEGの役割だと考えています。

私は、國枝会長が掲げる「地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG」のスローガンのもと、会長所信で述べられておられる“地域”の視点を第一に考え、『地域のために、YEGのために、会員のために』を基本に、その職責を果たしていく所存でございます。

どうぞよろしくお願い致します。



副会長
池戸一成

日本YEG副会長という大役をお受けした私を、「さぞかし立派なヤツ」とお思いでしょうが、私は人間も事

業所もちっぽけでござんす。私をご存知の方々は、良くてご存知でござんしょう。こんなヤツが副会長やるんですから、日本YEGって大したことない・・・と思いきや、そんなことござんせん。一言で「数のパワー」とでも申しましょうか、大きな力を持っていやす。

そんな立派でもない者が集まって、こんな力を持つ日本YEGってすごいと思いませんか?



副会長
味本 隆

日本いや全世界的にみても、現在は大きな変革期を迎えているのではないのでしょうか。IT産業に代表される情報の即時共有化、それに派生する商工業のグローバル化。それは有史以来いくつかの変革を経ている人類史の中でも、ルネッサンスや産業革命に匹敵する大きなターニングポイントであると個人的には考えています。しかしそういった、ともすれば派手な面、先行すると

ころばかりに眼を向けていていいのでしょうか？

私たちY E Gは各地の商工会議所活動の一翼を担い、所属する会員の事業を発展させることで、地域経済に貢献し、様々な活動を行っております。その本分を今一度思い起こしてみませんか。拠とする自分たちの“地域”をしっかりと確認することが、その先の広域的な発展に繋がっていくのではないのでしょうか？

私の出身である高知県は、坂本龍馬をはじめとする歴史的な偉人を数多く輩出しております。私とその先輩たちと並び称されることはありませんが、維新の志や、時代変革の心意気をもって、国枝会長の思いを形にかえる助力になることができれば本望です。1年間どうかよろしくお願い申し上げます。



専務理事
鳥澤加津志

日本いや全世界的にみても、現在は大きな変革期を迎えているのではないのでしょうか。IT産業に代表される情報の即時共有化、それに派生する商工業のグローバル化。それは有史以来いくつかの変革を経ている人類史の中でも、ルネッサンスや産業革命に匹敵する大きなターニングポイントであると個人的には考えています。しかしそういった、ともすれば派手な面、先行すると

ころばかりに眼を向けていていいのでしょうか？

私たちY E Gは各地の商工会議所活動の一翼を担い、所属する会員の事業を発展させることで、地域経済に貢献し、様々な活動を行っております。その本分を今一度思い起こしてみませんか。拠とする自分たちの“地域”をしっかりと確認することが、その先の広域的な発展に繋がっていくのではないのでしょうか？

私の出身である高知県は、坂本龍馬をはじめとする歴史的な偉人を数多く輩出しております。私とその先輩たちと並び称されることはありませんが、維新の志や、時代変革の心意気をもって、国枝会長の思いを形にかえる助力になることができれば本望です。1年間どうかよろしくお願い申し上げます。



北海道ブロック代表理事
大平修二

「地域が創る日本の未来、
故郷（ふるさと）の新しい風Y E G」

平成18年度上記スローガンで國枝日本Y E G会長と共

に一年間「世界遺産観光と自然、道州制に積極的に取り組む」北の大地北海道より北海道代表理事として出向致します石狩Y E G大平修二と申します。

新生日本Y E Gメンバーと共に積極的に取り組んで参りたいと考えています。

4月に北海道ブロック会議が國枝会長のお膝元帯広の地で開催いたします。北の大地北海道から始まる日本Y E G「地域が創る日本の未来、故郷（ふるさと）の新しい風Y E G」まじめに楽しく一年間よろしくお願ひします。



東北ブロック代表理事
鍋谷 昭

平成18年度は、商工会議所を知らう運動特別委員会、

地域連携推進委員会の両委員会を軸に置き、活発な交流と連携の推進。参加して身になるY E G活動の推進を図って行きたいと考えております。また、我々東北の仲間が、日本Y E Gの地域創造・支援特別委員会の先導者として活動致します。東北ブロックとしても全面的に支援しながら、東北46単会が勇気と情熱を持って行動する組織集団になるようがんばっていきたく思います。



関東ブロック代表理事
池澤雅至

平成18年度関東ブロック代表理事を務めさせていただきます、野田Y E Gの池澤雅至と申します。今年度は、

人と人との繋がりを大事にするという原点を見つめ直し、関東のY E Gの仲間と今まで以上に連携を強化していきたいと思ひます。また関東だけに留まらず、全国のY E Gのメンバーと絆を深めることで、互いの情報交換や青年経済人として自己研鑽することにより、ビジネスチャンスを掴めるきっかけづくりができるよう活動してまいります。一年間どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



北陸信越ブロック代表理事
佐藤 悟

北陸信越ブロック代表理事の長野県連・大町YEG佐藤悟です。

平成18年度日本YEGスローガン「地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG」の下、一年間一生懸命務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

異なった業種に携わる我々YEGメンバーは、各事業

所の「顔」として営業・購入・販売・サービス提供・雇用・經理の認識を持ちつつ、自らが消費者として「地域経済」に係わっていかねばなりません。そのための情報収集・活動を行ううえで、各単会・各県連・ブロック商工会議所青年部連合会・日本YEGのネットワークと資産を共有し活用していくことは大変意義あるものと考えます。また、「勝ち組」「負け組み」にとらわれず、惻隱の心をもつ中小企業としての「いい仕事」と親切丁寧なサービスの提供、そして全国YEGメンバーとの絆深めることは、継続して事業所を経営していく上で大きな力になるはず

です。お世話になります。よろしくお願いいたします。



東海ブロック代表理事
青山 春樹

今年度、三重県連・津YEGより東海ブロック代表理事として出向させております青山春樹と申します。

1年間、日本YEG皆様のお役になるよう一生懸命務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

我々を取り巻く社会情勢は大きく転換しようとしている時代に、有意義なものは何かと考えますと、私はYEGが真っ先に頭に浮かんできます。YEGこそが宝の山

と思います。

私は、このYEGという全国で出会ったひとり一人の感動・情熱・友情を束ね、「絆」を深めるような交流と連携を活かし、地域の文化、産業などの分野を通して新しい価値の創造・連携をはかっていくことが大事な事ではないかと考えております。

平成18年度日本YEGスローガン「地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG」にもありますように主役は地域です。その地域が連携をもてば更に素晴らしいものが出来上がると思います。

“絆は強い原動力”として、一生懸命精進いたしますので皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



近畿ブロック代表理事
水本 和良

今年度は、國枝会長のもと、「顔の見える日本YEG、役に立つ日本YEG」を旨として活動していきたいと思っています。

また、近畿ブロック商工会議所青年部連合会の会長として、YEGの仲間を知ること、府県間での交流を盛んにし、ブロック内の各YEGや府県連の声を、日本YEGへと届けられるようにブロックの結束を更に高めていきたいと思っています。

さて、9月8、9日には、近畿ブロック大会大和高田大会が開催されます。皆様方にはなにかとご依頼、ご無理をおかけすると思いますが、なにとぞご協力の方、よろしくお願いいたします。



中国ブロック代表理事
坪井 祥隆

平成18年度中国ブロック代表理事を務めさせていただきます。岡山県総社YEGの坪井祥隆です。本年度から会員が単会になりやっと8ブロックに足並みがそろって参りました。YEGメンバーとして、YEGメンバーにしかできないことをやるのが信条です。1年間プロ代としての職務を全うしたいと思います。

「活かせ3,000人のネットワーク 交流と連携のYEGに」

企業人として、あるべき姿とはどのようなものでしょうか。企業経営にスピードが求められる反面、利益追求型に傾注する企業が目立つようになりました。企業として利益追求は当たり前のことなのですが、儲ければよいという経営は淘汰され、これからは社会において貢献できる企業が生き残れる時代を迎えるのではないのでしょうか。

「YEGって何ですか。YEGは、あなたの役に立っていますか、そしてあなたの会社や街に必要ですか。」

YEGにもあるべき姿があるはず。YEGには、「気づき(情報)」と「絆(友情)」があります。会費を無駄にしているませんか。時代は、向上心や好奇心のある者に必ずチャンスを与えます。YEGはその為に存在し、あなたやあなたの周りの人を幸せにすると信じています。

平成18年度、中国ブロック商工会議所青年部連合会は「活かせ3,000人のネットワーク 交流と連携のYEGに」をスローガンに、YEGメンバーの為に活動を展開して参ります。

まずは、交流です。そこから生まれる友情と連携を大切にして、中国5県にビジネスパートナーや友達をつくってみたいと思います。会員3,000人との交流により、己を奮起させてください。また、YEGで得たものを自らの企業や単会に活かしてください。

そのきっかけをつくるのが平成18年度中青連の役割です。単会YEGの人材を育成し、地域の為に役立つ人づくりを目指して邁進いたしますので、ご理解ご支援の程お願い申し上げます。



四国ブロック代表理事
岡本 淳一

平成18年度四国ブロック代表理事をさせていただきます高知Y E Gの岡本淳一と申します。今年度は高知市で

四国ブロック大会が9月に開催されます。高知の魅力を少しでも多くの皆様にお伝えし、高知のファンになっていただくと共に、四国内の交流を深め活発な交流と活動のお手伝いをしたいと思っております。また、日本Y E Gの全国的なネットワークの活用を会員に促し、会員企業の発展に寄与したいと思っております。今年一年、地元力で日本Y E Gを盛り上げていきますので宜しくお願い致します。



九州ブロック代表理事
津村 弘毅

九州ブロック代表理事の津村です。
平成18年度日本Y E Gスローガン「地域が創る日本の

未来、故郷の新しい風Y E G」の下、一年間務めさせて頂きまのでよろしくお願ひいたします。

本年度は、第26回全国大会大分大会が大分県連主管もと開催されますが、九州ブロック8県「九州は、一つ」を合言葉に全面的に支援して参りますので多くの参加をお願い致します。

皆さん、大分でお逢いしましょう。

「九州は、一つ」です、よろしくお願ひいたします。



日本Y E G相談役
鈴木 悌介

【エールに代えまして】

この数年間の日本Y E Gでの体験を振り返り、今強く感じることは、Y E Gこそこの国の地域のために役に立っている組織であり仲間であるということ。そして、Y E G

の未来への責任の重大さです。Y E Gの可能性を信じて、積極的にY E Gに関わってください。

人口減という未曾有の時代に、自らリーダーとして立ち上がるべきはY E Gです。まだ若いからと甘えたり逃げたりしない。「自分たちこそが地域づくりの主役である。」その気概を持って、自分からその立場へ踏み込んで行ってください。

Y E Gがその力を最大限に発揮できるよう微力ながらお手伝いさせていただきます。



日本Y E G相談役
小園 浩幸

【夢・・・】

メルマガ読者の皆様、こんにちは

最近、新聞などでよく目にするのが「最近の子供たちが夢を持たなくなった」です。私たちが幼少の時代はどうだったでしょう？パイロット、医者、宇宙飛行士など

小学校の作文などで書いたことを最近思い出してしまうのは私だけでしょうか？私たちY E GはY E G宣言にあるように「私はY E Gとして、夢に挑む」とあるようにいかなることに常にも常に夢にチャレンジし続けてきました。

これからも地域で子供たちとともに「夢」を共に見れる活動を行いたいと改めて感じています。

日本Y E Gは地域の夢と希望をかなえるためこれからも活動し続けてまいります。18年度、國枝会長率いる日本Y E Gへご理解とご協力をお願いいたします。

『地域が創る日本の未来』実現に向けて

『故郷の新しい風Y E G』を感じつつ・・・



日本Y E G相談役
井上 和宣

【相談役としての活動の抱負】

日本Y E G相談役、井上和宣（岡山Y E G）です。昨年度は、専務理事として一年間大変お世話になりました。この場をお借りし、改めて御礼申し上げます。

昨年度の全国大会愛知大会において、Y E Gは、互い

の地域の経済的発展に寄与することを目的に、アジア・大洋州各地のY E G的な組織あるいは活動との連携と協力の可能性を求めて、その一步を踏み出す『愛知宣言』を採択しました。その具体的アクションとして、本年度、鈴木悌介相談役が、アジア商工会議所連合会（C A C C I）若手企業家委員会副委員長に就任されました。鈴木相談役をサポートしながら、日本Y E Gのアジア・大洋州での活動が、全国400Y E G、26,000人メンバーのために、いかに寄与することができるか、その方向性と可能性を検証したいと思います。

1年間、宜しくお願い申し上げます。

翔生45号は編集・確認作業が時間がかかり発行が遅くなりました。委員会紹介・執行部・相談役挨拶原稿は平成18年度当初に作成した原稿であり、発行時期に合わない状態が発生しております。関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。



日商「山口会頭」、 日本YEG「役員」座談会

地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG

鳥澤.. 本日の司会を担当します、専務理事の鳥澤でございます。本対談では、日本商工会議所青年部を日本YEGと称させていただきたいと思っております。それでは、日本YEGの國枝会長よりご挨拶をお願いします。

國枝.. いつも日本YEGの事業にご協力いただき本当にありがとうございます。毎年、山口会頭には全国大会にご参加いただき本当にありがとうございます。本日の参加の役員は、日商の各小委員会に参加させていただいております。日頃から日本商工会議所の諸事業に関わらせて頂き本当に感謝しております。本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。

鳥澤.. 最初に、國枝会長より平成18年度日本YEGの事業概要を説明します。

國枝.. 今年度、日本YEGは「地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG」というスローガンを掲げ活動しています。このスローガンはそれぞれの地域でYEGメンバーが活躍しておりますが、彼らが地域に元気をもたらす風を巻き起こす存在になってほしい。それを日本YEGは応援・サポートをする、そういった役割を日本YEGが果たしたいと思いい、このスローガンにしました。

今年度は4つの常設委員会と2つ特別委員会で運営しています。特別委員会の1つは「商工会議所を知らう運動」を進めている地域創造・支援特別委員会です。地域発展は行政と商工会議所が車の両輪であり、会議所は車輪として重要な役割を担っています。YEGも車輪の一部として、地域の青年経済人として発言する必要がある。そのためには商工会議所の組織自体を知らないと言言できない。まずは商工会議所を知り、関わっていく、ということをサポートする委員会です。

もう1つはYEG改革推進会議で

す。会議では行政サイドの若手官僚と意見交換をしていきます。若手官僚も、地域のことを一生懸命考えています。彼らはデータベースとかアイデアは持っていますが、現場（地域）に手足を持っていません。一方YEGは現場（地域）が活動舞台なので手足は持っていますが、限定された地域の中でしか動いていないため、全体が見えません。また、乗り越えられない障壁が結構あります。そこでその両者が話をする事によって、地域に「新しい風」を巻き起こせると考えています。現在は日本YEGと若手官僚とのコミュニケーションを作成している段階です。最終的には日本各地にテールができて、地域を考える若手同士が一緒に取り組んでいける流れを作る活動を行っています。大きくはこの2本立ての特別委員会が今年の特徴です。

鳥澤.. ありがとうございます。それが、本日の参加者の自己紹介に入ります。

荒濱.. 昨年は大変お世話になり、ありがとうございます。山口会頭から（地元）米子商工会議所会頭に「荒濱



君、頑張ってるよ」と言っていた。いと聞いております、気を遣って頂きましてありがとうございます。司会者からもあったように昨年は、「日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会」という長い表記を「日本商工会議所青年部」に変更させて頂き、YEGブランド確立の観点から「商青連」と言っていた呼称を「日本YEG」と変更させて頂きました。また、リノベーションへの提言のひとつとして会長研修会、そして全国大会のあり方を考え直し、全国大会を2月から3月頃、会長研修会を11月頃に開催するという年間事業サイクルに変更させて頂きました（平成21年度から適用）。表記・呼称の変更、そして年間事業サイクルの変更は、検討を始めてから3年ぐらいかかりましたが、新しい一歩が踏み出せた1年になったと感じております。日本では一番小さな鳥取県から会長として出向させて頂いたが故に出来たことではないかと思っております。1年間、本当にご支援頂きましたことを御礼申し上げます。ありがとうございます。

原田.. 愛知県は豊田YEGから出向し副会長させて頂いております。原田でございます。宜しくお願ひいたします。昨年の全国大会愛知大会には式典から懇親会までご出席を頂きまして本当にありがとうございます。今年度は企画委員会を担当しています。今年の全国大会は11月に大分県連、会長研修会は2月に加賀YEGの主管により開催します。現在は企画内容について調整をしながら、より良い大会にするために委員会を中心に活動しています。また、全国9ブロックにおいてブロック大会が開催されます。各地の大会が良い大会となります。7月14日にブロック大会主管の皆様に集まり頂いてブロック大会開催地連絡会議を開催します。



鈴木.. 青森県の弘前から出向しております。担当は東地区の北海道・東北・関東ブロックと「商工会議所を知らう運動」の地域創造・支援特別委員会を担当しております。私は30代から地元で常議員をしております。商工会議所というのは地元に着着していかないと活動が止まってしまう。各地域の中での商工会議所のあり方はそれぞれ千差万別です。その地域を知らない活動ができません。YEGメンバーも自分が所属している商工会議所の仕組みを知っていくことが大事だろうという意識を全国に広げる運動の担当をしています。本日の対談のテーマの中にもございますので、是非会頭からもご意見を頂ければと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

池戸.. 岐阜県の各務原から出向しております。池戸と申します。中地区の北陸信越・東海・近畿と研修委員会を担当させて頂きます。研修委員会は非常に沢山の事業を抱えておりまして、

YEG大賞、今回で4回目になります。ビジネスプランコンテスト、翔生塾、講師データベースなど、各地のYEGのための事業、もしくはYEG会員のための事業というような切り口で各事業の企画運営をさせて頂いております。一つ一つの事業についてお話しすると長くなってしまいますので説明は控えますが、頑張っておりますので宜しくお願いいたします。

味本：四国の高知県、高知YEGより出向しております。味本と申します。西地区担当ということで、中国・四国・九州の3ブロックとYEG改革推進会議を担当させて頂いております。先ほど國枝会長が説明したように、若手官僚と地域のことについて、本音で語っていくという事業を進めています。若手官僚と既に3回会議をしております。自分以外のほとんどのYEGメンバーが東大出身のキャリア官僚と初めて触れ合います。彼らは僕の想像以上に熱心に国のこと考えています。最近やっとお互いに本音で語れるようになりました。地域のために一つのことを成し遂げるということを実際の事業として、成果が出つつございます。楽しみにしててください。



鳥澤：私は総務委員会と広報委員会の担当で専務理事の鳥澤でございます。埼玉の上尾から出向しています。東京に近いから、日商に近いから、お前は専務理事をやれということでも任命されたと思っております(笑)。今年度は昨年呼称が変わった件や組織自体も20数年経ってきて、随分見直していく部分が多くなり、総務委員会を中心となって見直しをしています。また、いろんな政策提言をしていく中でYEGブランドというものを確立しなければ、日本YEGの事業なのか理解していただけません。いろいろな事業を進めると同時に、広報委員会は私たちの組織をしっかりとしてPRするという点を重点に置いて活動しております。様々な面で広報というものに関して日本商工会議所から指導していただきたいと思っております。宜しくお願いたします。

小谷：予定外に参加させて頂いております。加賀から出向しています小谷です。今年度は監事ですが本当は卒業の年度にやる役じゃないんですかと皆さんに申しあげています。私は卒業までまだ8年ございます。今年度は本当に成熟した組織であると感じておりますので、もう一皮こう大きく伸びるように後方支援ができればと思っております。原田副会長が言ったように加賀で会長研修会がございまして、今年度よろしければ会長研修会のご参加も是非お考え下さい(笑)。宜しくお願いたします。

鳥澤：これからは対談のテーマに沿って進めて行きたいと思っております。まずは先ほど鈴木副会長の方からお話ありましたように、商工会議所の中の一部として青年部というのがあるわけですが、この青年部というのは何だろうか？という位置づけなのか？ということ今年度は考えております。まずは鈴木副会長からご説明を

お願いします。

鈴木：地域創造・支援特別委員会では春の会長会議で全ブロックを回り、全国の会長と対談をさせて頂いております。その中で、青年部が設置されている商工会議所で、会議所の定款に「青年部」がきちんと載っているところもあれば、載っていないところもある。これは各会議所で自由に決められることなので我々が提案できる話ではありません。全国には青年部未設置の会議所や日本YEG未加入の青年部がありますが、その会議所に対して青年部や日本YEGを浸透していきたいと考えています。日本商工会議所青年部は日商の定款にもきちんと位置づけされていますが、日本商工会議所の会頭として青年部をどう位置づけられておられるのか？また青年部をどのように活用したいか？会頭の青年部に対する意識や位置づけをお聞かせ頂ければありがたいと思っております。宜しくお願いたします。

会頭：YEGには、組織的にもより強くなら、各商工会議所の中でも頑張ること、商工会議所全体を活性化する推進力になっていただきたいと思っています。YEGのOBから各地区の会頭になられた方が全体の1割、副会頭が2割いらっしゃるようですが、これからは研鑽されて主要ポストに就かれることを期待しています。

日本にはさまざまな経済団体がありますが、最も多くの企業の声を代表するのは、商工会議所なんです。まちづくり三法の改正、そして真に必要な幹線道路網の早期整備について陳情した際も、商工会議所が全国の代表として提言することについては、やはり政府は非常に重く受け止めているように感じています。その力を、もっとも強くしたいですね。



鈴木：今、地域の中で青年部も模索をしています。青年部の規約に、商工会議所の一翼を担うために我々は活動をするとなっております。商工会議所の標準定款の中で、青年部と女性会を置くということになってますが、全国ではその通りになってないところがあります。日商の事務局から各地商工会議所にお願することを毎年して頂いてますが、もっと強くして押していただくことを望んでいます。

國枝：商工会議所の役割というのが、地域によってもちやんと出来てないところもありません。経団連とか同友会などは大企業ベースで物を考えていらっしゃるの、地域のコミュニティをベースに物を考える組織は商工会議所しかないという思いがあります。ほんとに有機的に動けるような若い人がどんどん入って行って、地域の未来を、絵を描けるような組織になっていくと、本当の意味で行政と車の両輪になってまちづくりができるんじゃないかなと、そういう意味で今年の委員会を取り組んでいくことはすごく重要なポイントになってくるかと期待しています。

日本にはさまざまな経済団体がありますが、最も多くの企業の声を代表するのは、商工会議所なんです。まちづくり三法の改正、そして真に必要な幹線道路網の早期整備について陳情した際も、商工会議所が全国の代表として提言することについては、やはり政府は非常に重く受け止めているように感じています。その力を、もっとも強くしたいですね。

鈴木：私が東北ブロックの会長のときに、仙台と盛岡に青年部がありませんでした。ちょっと私が会長のときに作っていただきました。そのときは、仙台の会頭に「日商の副会長なんですから是非作ってもらわないと困りますよ」とお願したところ、「それだったら作んなきゃいけないか」という話になりました。未設置の会議所にもそういうような言い方もひとつの方法と考えています。

鳥澤：今年度、未設置の商工会議所に青年部の設置を依頼しようと言っているなかで、会議所の合併によって青年部数が減りましたという訳にはいきませんので一生懸命頑張っています。このあたりも日商からも協力して頂きながら進めていきたいと思っております。

國枝：はい、頑張りますよ。

鳥澤：次のテーマは、先ほど山口会頭のお話もありましたように、商工会議所以外にも企業が集まっている団体はいろいろあります。会議所は中小企業の組織という一面もありますが、もうひとつ商工会議所の役割として、地域エリアのコミュニティの発展を願う組織という側面が特徴であり、他の組織に無い側面だと思っております。そういった中でまちづくり三法が改正されましたが、まちづくりの視点で山口会頭はどうお考えでしょうか。

鈴木：まちづくり三法では、7年前に安易に規制緩和したのが間違っていました。この間の商店街の荒れはひどいもので、取り戻すのは大変なことなんです。人口が減っていく社会で、大型店に消費者がどんどん吸収されたら商店街はひとたまりもありません。今後は、大型店も商店街も共生できるようなお互いの協力しようという方向になるでしょうね。

がら経営しています。一方、大企業

は最初から撤退も想定して地域に入ってきて、うまくいかなかったらいなくなる。地域には何の責任も持たないように見えてしまう。その辺をきちんとしてくれば、来てもらうのは非常にありがたいことだし、むしろまちの活性化にもつながると思います。

国枝

消費者としても大型店舗は商品的にはいろんなものや新しいものも手に入る、それは必要であると思うのです。ただ商店街は地域の祭りでもイベントでも手弁当で活動し、地域に対していろんな意味で責任を持ちながら会社運営もやっています。僕らから見ると、大企業ってのは最初から撤退することも考えて地域に入ってきている。実際にだめに何

も責任も持たない。地域に対して何をしてしまうんです。本当は地域に対する責任を持って頂けると、来てもらうのは非常にありがたいことだし、むしろまちの活性化にもつながるんじゃないかと思えます。そのまち・地域に対する責任を考えていただきたい。

会頭

前回の改正では、騒音、交通渋滞、廃棄物などの環境面での調整しかできなかつたわけです。それから農地転用が自由になったため、首長が事実上の大型店の出店許可権を持ってしまった。けれど、今回の改正でそういうことは全部できなくなりまして。転用したら農地ではない。都市計画をしっかり立てて、県知事が市町村の広域調整をする。公の施設は、許可がないと市街地から出られない。画期的な改正となりました。

国枝

また、地域にとっては基本的な交通網はどうしても必要になってきますね。特に北海道のように広いところでは生活道路にしても観光道路にしても、ここに必要だというのが出て

荒濱

鳥取県の場合なんかは県庁所在地の鳥取市から姫路に向かって無料のバイパス道路を県が作ります。米子市は岡山に向けて有料道路です。そうすると有料の米子市は不利になっており、大阪から鳥取市に流れてくる人口はすくく増えます。県が作る道路と国が作る道路で県の様子も変わってしまうという事実も起きています。

国枝

プラスマイナスの動きはどうしたって出てきますよ

会頭

現在日商では、「道路問題」を政府に要望しています。幹線道路で計画が最も未達成なのは山陰、東九州。それと北海道です。民営化した道路公団は、利益の出ない道路は作らない。ですから、真に必要な道路は政府の予算でしっかりと作ってもらいたい。少なくとも競争条件だけは揃えなければいけない。幹線道路ができて企業が進出すれば、地域は賑わい、人が活きるんです。経団連の御手洗会長が「東九州に幹線道路を通してもらえば、中国に負けないコストも実現できる」とおっしゃっていました。地域では環境が整備され、企業が来るのを待っている。人は一度都会に出たら元へ戻りません。地域を担う人を残すためにも必要な道路は通さないよ。

国枝

それはどれだけ産業を興すか、あるいは今あるパイをいかに大きくするかでことですね。少子化問題もそうですが結局は雇用問題ですね。仕事がないと子供も産み育てる気にはなれないですからね。

鳥澤

そう考えるとですね、やはり一つはまちづくりと、もう一つは人づくりっていうのが非常に大きいことになりまして。昨年のYEG大賞でグランプリ取ったのがHey! Say! Cafe!で岡山YEGが主催している「出会いの場」の提供です。つ

まり少子化対策が大賞を取りました。これからのいろんなまち(商工会議所)で少子化対策をやる。これが商工業には直接つながらないかもしれないですが、やはり人が産業の基本になるので、少子化問題は必要と考えています。日本商工会議所としてはこの少子化対策はどうお考えですか。

会頭

日商では一昨年から、他に先駆けて少子化問題を重点政策に掲げています。これは、効果が出るまで、50年、100年かかる。だからこそ、今すぐ、やってくださいと言っています。猪口担当大臣に「少子化対策として、婚外子も検討しては。」と申しあげたところ、「経済団体から、そんな提言は初めてです」と驚かれました。もっと大らかに、いろいろな検討すればいいと思うのですが、なかなか進みません。私は、若い人が親や地域の皆さんに支えられ地域で子育てすることを推奨したい。地域の方がはるかに子供を育てやすいと思っています。

国枝

鳥澤..人が減って栄えるということはやりに考えられません。人が多くなるための支援を各地の商工会議所がどんな政策をやっていくべきかと思えます。池戸副会長は少子化対策について活動をされていますか。

池戸

今のところありませんが、岡山YEGではHey! Say! Cafe!を全国どこでもできるようにマニュアル化して頂いていますので、青年部が中心になって各地の商工会議所に広めたいですね。

篠原

全国事業にしましょう。

国枝

女性会の方でこうした事業をやっておられる方、随分あるんですね。やはりきちんと仕切るところが必要ですね。岡山YEGみたいにきちっと仕切ってメンバーの紹介である人間が出席していくというように形であれば安心して参加できます。

荒濱

池戸..民間の結婚相談所みたいなものじゃなくて、公共性の高い商工会議所でやることで、信頼感・安心感がありますね。

鳥澤..時間の許す限りいろんな話を聞きたいのですが、そろそろお時間でございますので、最後に国枝会長からお話を頂きたいと思えます。

国枝

今日はお忙しいところお時間を頂きましてありがとうございます。委員会からの要望もありましたが、これからもご支援をお願いします。未設置の商工会議所には、「YEG」という組織は横のネットワークが充実していますので、今後より全国の連携を強くすることで大きな可能性を秘めているんです」と説明しながら新しい仲間を増やしていきたいです。ただ日本YEGにも限界がありますので、是非日本商工会議所のほうからも、未設置商工会議所に「青年部を設置しよう」と呼びかけて頂きたいと思えます。これからは非ご支援・ご協力を宜しくお願ひしたいと思えます。

会頭

(日本商工会議所青年部、日本YEG)名前が変わって、非常に新鮮ですね。

国枝

本当にそうです。僕ら自身が変わりました。「日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会」は寄り合い所帯っていうイメージがどうしてもありましたが「日本YEG」という呼

称になってからは外部の人からも一つの人格として認められました。「日本YEG」が発言しているというようになりまして。

会頭

機関誌等で周知していきたい。鳥澤..本日は大変貴重なお時間を頂きまして本当にありがとうございます。これからも、日本商工会議所青年部と日本商工会議所が手と手を組んで、日本の未来のために、一生懸命邁進していきたいと思っております。本日はありがとうございます。

日本商工会議所

会頭 山口 信夫
常務理事 篠原 徹

日本YEG

会 長 国枝 恭二
直前会長 荒濱健太郎
副会長 原田 隆司
鈴木 順三
池戸 一成
味本 隆
専務理事 鳥澤加津志
監 事 小谷由美子





YEGポスター紹介

YEGポスターは翔生のポスター版として作成し、全国の商工会議所に配布しました。日本YEGのライブラリコーナーからもダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

<http://yeg.jp/2006/library/?poster2006>



YEG改革推進会議と地域創造・支援特別委員会の紹介

□YEG改革推進会議について

YEG改革推進会議では、味本副会長並び後藤議長の下、3つのグループに構成されます。

- (1) 日本YEG・あり方検討グループ
17年度にまとめられて「あり方検討」をベースに、日本YEGが今後担うべき役割、それを実行するための組織のあり方、そのためのブロック、県連、単会との連携について議論し、検討していくグループです。
- (2) 日本YEG・アジア連携検討グループ
アジアにおける連携についての情報収集し、日本YEGが今後どのような形でアジアと連携していくべきかを議論しているグループです。
CACCI (アジア商工会議所連合会) との連携事業や10月30日～11月2日に台湾で行われえる総会への参加します。
- (3) 「故郷の新しい風会議」推進グループ
日本YEGが担うべき1つの役割に中央とのパイプがあると考え、国の各省庁(若手官僚)とのダイレクトな連携の場を本会議に設定していくグループです。
日本YEGの役員会やブロック大会や全国大会の日程にあわせて、「故郷の新しい風会議」を開催します。

『地域創造・支援特別委員会』設置の目的

“今、我々YEGが何を考え、何をしなければならないのか”

現在全国522の商工会議所に、日本商工会議所青年部(以下「日本YEG」と表記)に加入している「青年部」が399存在し、皆それぞれ地域をよりよくするために、また地域経済活性化のために日夜汗のご活躍されていることと思います。しかし、その活動が商工会議所活動と一体のものとして地域に認識されているのかと検証してみると、各単会で大きな差があるように思います。

商工会議所活動を大きく分けると「意見・建議活動」「まちづくり事業実施活動」「地域企業振興活動」の3つに捉えることができますが、現状の青年部の活動は、商工会議所の下請けや協力活動が主になっていることが多く、実際の現場で汗して地域のために活動しているにもかかわらず、商工会

議所活動の最も重要な役割である「意見・建議活動」に青年部の意見が反映されている単会がどれくらいあるのでしょうか。

私たち青年部が商工会議所活動の一翼を担っているのであれば、私たちはもっと商工会議所のことを知る必要がありますし、私たちの意見を商工会議所の「意見・建議活動」に反映させるのであれば、もっともっと商工会議所の仕組みを勉強する必要があります。

これらを踏まえ当委員会では、各単会において「青年部」に関する活発な議論を展開して頂く為に、商工会議所をより良く・より広く知るところから課題や問題を提起させていただきます。そのためにまずは組織基盤確立の観点から「商工会議所」「日本YEG」の定義と目的を明確にし、その基本概念を精査しつつ、全国の青年部未設置商工会議所に対して青年部の設置を依頼していくとともに、日本YEGの未加入単会に対しての加入依頼を通して「今、我々YEGが何を考え、何をしなければならないのか」という課題に対し、各単会や地域が抱える様々な現状や問題を共に考え、行動を起こしてまいりたいと思います。そして全国399の日本YEG加入単会が522加入単会の連合会組織へと増強・発展することを目指します。

次に政策提言の観点から、青年部がそれぞれの地域や我々中小企業を取り巻く諸問題を広く吸い上げ、全国規模の連合会組織としての強みをフルに生かし、行政府などに対し、意見・建議活動そして政策提言を行って行くよう啓蒙活動をしてまいります。

また起業を通じた地域づくりの観点から、各地青年部が展開しているいくつかの起業育成ツールをご紹介しながら、次代のより良い地域づくりのために日本YEGとしてどのようなサポートができるのか共に考えてまいります。

以上のように、全国各地で活躍する“YEG”の皆様にとって「役に立つ委員会」を目指し、委員会メンバー一同1年間一生懸命努めさせていただきますので、よろしくご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、本件に関して全国のYEGメンバーの皆様のご意見とご感想をお待ち申し上げます。

ブロック大会

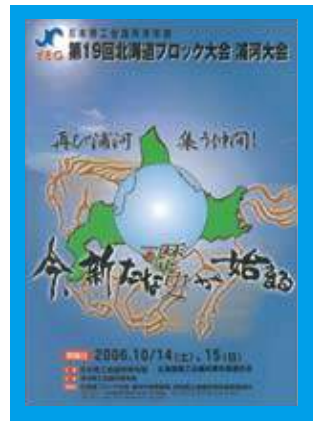
大町大会 2006.9/12(※)▶13(※)



総社大会 2006.9/15(金)▶16(土)



大和高田大会 2006.9/8(金)▶9(土)

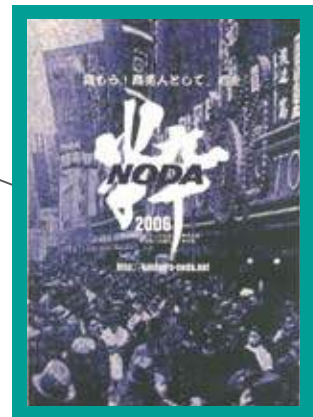


浦河大会 2006.10/14(土)▶15(日)

酒田大会 2006.9/28(木)▶30(土)



大川大会 2006.8/25(金)▶27(日)



野田大会 2006.10/6(金)▶7(土)



高知大会 2006.9/1(金)▶3(日)



鈴鹿大会 2006.10/27(金)▶28(土)



北海道ブロック大会

日 時：2006年10月13日(金)、14日(土)、15日(日)

場 所：北海道浦河郡浦河町

開催地テーマ：

「再び浦河 集う仲間！
今、新たな歴史が始まる。」



平成18年10月13日(金)～15日(日)、北海道浦河商工会議所青年部の主管により第19回北海道ブロック大会浦河大会が浦河町内に於いて開催されました。

13日(金)の前泊者交流会が浦河インで開催されました。

14日(土)は9時30分より北海道ブロック会長会議から始まりました。一般会員の登録は11時より受付です。

13時より3つの分科会が浦河優駿ビレッジ・アエルを起点に行われました。

第1分科会では「パークゴルフ交流会」で大自然の中プレイをしました。

第2分科会では「ホースシューズ交流会」で新しい体験型交流をしました。

第3分科会では「JRA施設見学」を満喫しました。

16時30分より記念講演が行われました。講演は、元プロ野球投手でプロ野球解説者の村田兆治氏です。テーマは地域経済とスポーツ・執念が私の野球人生を支えてきたです。会場は浦河町総合文化会館文化ホールで開演され、YEGメンバーは本より一般来場者が多数傍聴しました。中でも中学・高校生が多かった。背景として、駒大苫小牧の甲子園で3年連続の健闘と日ハムファイターズの優勝で、野球そのものが地元で大きく盛り上がりを見せているからでしょう。講演内容は、投手再起不能と言われた男が、自分の努力と家族を含め周りの人々に大きく励まされ、不死鳥の如く蘇った話を中心に講演頂いた。本当に努力家だと感じた。パフォーマンスで、サイン入りボールを中学生2名にマサカリ投法でプレゼントしました。YEGメンバーもボールを貰いましたが、ハプニング発生！顔面キャッチで会場大盛り上がり、当人そうとう痛かったでしょう。ついでに本まで頂きました。痛みへの代償は、サインボールと本ですが、是非今後もYEG活動にご尽力下さい。

18時30分より、大懇親会が同会場3階で行われました。もちろん村田兆治氏も参加されサインと写真をねだられていました。我々國枝会長は人間神輿で会場入り、お礼と激励の挨拶をし、乾杯は東地区担当鈴木副会長が音頭を取り、盛大に開催された。他ブロック(4～7県の地区)と違い北海道は1県と同じ1つの道としてブロック分けされているので、団結力があり登録数のほとんどが参加されていました。各単会のメンバーは久しぶりの交流に酒を酌み交わし、次世の話に花を咲かせ希望をもって意見交換をしていました。2次会、3次会と浦河の止まり木を飛び回ったのは、私と委員長だけでないはずだ。

47人の浦河YEGメンバーのサポートに感謝。合掌

日が明け15日9時より表敬訪問。浦河町長と浦河商工会議所会頭の2名と國枝会長率いる総勢8名の日本YEGメンバーと北海道ブロック大平代表理事率いる総勢6名で名刺交換後会談しました。

大平プロ代・日本YEG國枝会長と主催者挨拶の後、日商山口会頭のビデオメッセージと続き、主管浦河YEG吉田会長お礼の挨拶、開催地浦河商工会小林会頭の挨拶、来賓挨拶と続き、後のセレモニーはすべて順調に進行され、本大会の記念式典が滞りなく無事成功の元終えた。浦河YEG吉田会長と本大会実行委員長小林君に記録ビデオの作成に協力頂いた。

北海道ブロック大会浦河大会の登録 332名

浦河町人口 15,500人

業 種 漁業・牧場・酪農

名 産 日高昆布・競争馬

そ の 他 地震が多い ピンク一切無し

佐藤のつぶやき

ともかく遠い 浦河は町なのに商工会議所がある！？！？

佐藤の感想と印象

何処を見ても山と海。山は紅葉初め、海は寂しく冬を迎える気配がした。

センチメンタルになるかも。これにて、一件落着。

PS

襟裳岬は観光名所であるが、四季を問わず、何も無い・・・春です。アツ秋か！

襟裳岬より新千歳空港まで約190km 僕はその日レーサーになった。

報告者 平成18年度日本YEG広報委員会 理事 弘前YEG・佐藤浩之

東北ブロック大会

日 時：2006年9月28日(木)、29日(金)、30日(土)

場 所：山形県酒田市

開催地テーマ：

「君よ、きたまえに来たまえ！」



9月28日(木)・29日(金)・30日(土)「君よ、きたまえに来たまえ！」をスローガンに公益と商人の街酒田の地で第25回東北ブロック大会が過去最高927名の登録で開催されました。

28日は東北ブロック執行部会議・役員会・臨時総会が行われ、次年度会長選任を含め進められました。特に22年度全国大会に2単会より候補の名乗りあがり、東北の情熱を改めて感じる会議となりました。

前泊者懇親会は東北で老舗のフランス料理店「ル・ポットフー」にてフルコースをいただき初日を終了いたしました。

2日目はブロック会長会議、「これでいいのか？ YEG 待ったなし！ 地域再生、日本の再生地域のリーダーは君だ」と題し地域創造・支援特別委員会が進行しディスカッションされ、活発な意見が交わされました。

午後1時より東北地元ネットでお馴染みの八波一起氏の司会で記念式典、続いて記念講演講師のアクシデントに対し実行委員長より、お詫びの挨拶がありました。その件を感じさせない実行委員メンバーの熱意と「安部政権への期待と不安」と題した早稲田大学院教授、田勢康弘氏の講演でした。終了後分科会が行われました。

第1分科会

まちおこし会社の野望と挑戦

第2分科会

メディア文化の街酒田

第3分科会

商人の街酒田・公益の街酒田 探訪

第4分科会

東北ブロック特別委員会



分科会は基本の根底理念はこれからの商業をどう考えるか、一人ひとりが地域のリーダーとしての自覚を再確認しました。

大懇親会では日本酒のきき酒が行われ、会場には山形の酒造メーカーのブースの設置、又酒田芸子のおどりも披露されるなど江戸より栄えた文化の根付きを感じさせられました。

天候にも恵まれ、本大会は3日目エクスカージョンも無事終了するところことができました。19年度第26回八戸大会に繋ぐべく、東北ブロック会員全員が情熱を持ち地域を活性化していく交流の場になった大会でした。

報告者 平成18年度日本YEG広報委員会 理事 横手YEG 高橋 まゆみ

関東ブロック大会

日時：2006年10月6日(金)、7日(土)

場所：千葉県野田市

開催地テーマ：

『粹』育もう！ 商売人として 心を、



10月6日(金)・7日(土)の2日間に亘り、醤油醸造中心に文化と歴史が豊かに発展してきたまち、千葉県野田市に於いて第26回関東ブロック大会が開催されました。

1,200余名のY E Gメンバーが一堂に会し、「『粹』育もう！ 商売人として 心を」のテーマの下、池澤関青連会長以下野田Y E G、千葉県青連の皆さんが丹精込め練りに練ったプログラムに対して、参加者全員が真摯に取り組み消化してゆきました。今年度の関青連スローガンは「熱ある仲間ほひとつ、心もひとつ、心意気の関東Y E G」。大会テーマの「粹」と「心意気」を随所に感じさせる熱のこもった大会となりました。

第1日目は役員会・定時総会・会長会議が行われ、次年度役員承認、次年度関東ブロック大会開催地承認等、Y E Gの未来を担う議題に身の引き締まる思いが致しました。また会長会議のなかで日本Y E Gと単会会長の間で行われた意見交換は大変な熱気を帯び、時間超過を忘れるほどの盛り上がりを見せていました。会議終了後は同会場にて前泊者懇親会が開催され活発な名刺交換を行いました。

第2日目は記念式典・記念講演・分科会・大懇親会のメインプログラム。多くのご来賓に出席いただいた記念式典では、次年度関東ブロック大会開催地平塚Y E Gへ大会旗の引渡しを堂々とそして厳粛に行われました。

記念講演はご当地キッコマン株式会社社長 牛久崇司様により「キッコマンの経営」と題して、創業以来340余年を経てきたキッコマンの経営戦略や、食と健康の広い分野での取り組み内容等を語っていただきました。21世紀の潮流について①グローバル化、②規制緩和等の市場経済の自由化、③B t o B、B t o C等のI T化 の3つをあげられ、厳しい時代ではあるが「ピンチをピンチとして正しく認識し、チャンスに変える気概を持つことが大切」と結ばれました。

分科会は第1から第5まで5つの分科会が用意され1. 粹な商売、2. 粹な郷土、3. 粹な産業、4. いい金(粹)を探せ、5. 活き(粹)な会議 とそれぞれ「粹」をテーマにした内容で、メンバーはそれぞれに積極的に参加しました。

大懇親会をご来賓の皆様、日本Y E G、そして関ブロ内各県連交えての大いなる交流の場となり、粹なアトラクションが繰り広げるなか、ボーダーレスの談笑の輪が会場全体に広がりまさにY E Gがひとつになった瞬間でした。

今大会最も「粹」だったのは6日早朝より50余名で開催された《粹ゴルフ Tournament》だったかもしれません。2つの台風が接近する中、横なぶりの雨と風に負けずラウンドした皆さん、Y E Gの「心意気」を本当に見せていただいたと思います。来年は10月5日、6日平塚の地で開催されます。関東ブロック野田大会は主催者、参加者共にひとつになりY E Gの友情の輪を太く大きくして「粹」に幕を閉じました。

報告者 平成18年度日本Y E G広報委員会 副委員長 富士Y E G 吉川 隆裕

北陸信越ブロック大会

日 時：2006年9月11日(月)、12日(火)、13日(水)

場 所：長野県大町市

開催地テーマ：

「日本の屋根からずくだせ！」



平成18年9月11日(月)～13日(水)、長野県大町商工会議所青年部の主管により第26回北陸信越ブロック大会大町大会が長野県大町市内に於いて開催されました。

11日(月)の前泊者交流会からスタートしました。会場は割烹 泉味です。

12日(火)午前中は北陸信越ブロックの役員会・会員総会・会長会議が黒部観光ホテルで開催されました。

午後は3つの分科会及、夜の大懇親会が開催されました。

第1分科会では「ずくと知恵でまちづくり エコプロジェクトツアー」で環境に優しい活動などを見学しました。

第2分科会では「ずくだして、(歩) えべや！ おおまち酒蔵巡り」のテーマで酒蔵と商店街その新しい取り組みを見学しました。

第3分科会では「ずくだして見てとくれや！ 高瀬渓谷電力開発の旅」というテーマでダムや発電所の見学、そして初秋を迎える高瀬渓谷を満喫しました。

そしてブロック大会をはじめ各種大会においてメインである大懇親会です。

会場は黒部観光ホテル・大ホールで開催されました。

年に一度しか会えないメンバーとの交流、その時間を共有し相互のビジネス談議に花を咲かせ、また友情を深め有意義な時間を過ごしました。そしてネオンに導かれる人、温泉を堪能する人それぞれ大町での夜を楽しんだ事だと思います。

13日(水)、記念式典・記念式典が9時15分より開催されました。記念講演は参院議員・荻原健司氏をお迎えし「本気は本物か」のテーマで講演をして頂きました。「本気は本物か」は氏の座右の銘で自分が取り組もうとする事に対し自分自身への約束(目標)であることを忘れないために常に念頭において行動すると話されました。これは我々のビジネスにも当てはまる事で原点を見直すということで意義のある講演であったと感じました。



今年度の北陸信越ブロックは全国9ブロックの中で一番ホットだと式典・会長挨拶の中で国枝会長が話されていました。新潟でのサッカー大会、長野県連の日本YEG加入申請、富山県連の全国大会の件、そして石川県連では加賀会長研修会が開催される事など熱い大町・北陸信越ブロックから「ずく」を参加者それぞれに持ち帰ると同時に今年度の折り返し地点通過、後半もまた元気一杯に走り続けましょう。

大会スタッフ、関係者に感謝の意を表し北陸信越ブロック大会大町大会の報告とさせていただきます。

報告者 平成18年度日本YEG広報委員会 専門委員 関YEG 野田雅之

東海ブロック大会

日 時：2006年10月27日(金)、28日(土)

場 所：三重県鈴鹿市

開催地テーマ：

「東海にこだまする全皆パワー！
鈴鹿のち・か・ら、全束力！」



平成18年10月27日(金)～28日(土)に9ブロック大会最後の大会で第19回東海ブロック大会鈴鹿大会が三重県鈴鹿商工会議所青年部の主管によって盛大に開催されました。

大会テーマは、「東海にこだまする全皆パワー！鈴鹿のち・か・ら、全束力！」

なんと鈴鹿ならではのタイトルです。なんと登録数1,500名の登録者人数を超える登録数1,586名が参加いたしました。東海の景気よさが反映したのではと思わざる終えないほどの登録数でした。

今回の東海ブロックの開催地が鈴鹿ということでモータースポーツの街のイメージを前面に表現したプログラムが組まれていました。

■第一分科会

レースクイーンと行くSUZUKAを知ろうバスツアー1 (市内視察)

■第二分科会

レースクイーンと行くSUZUKAを知ろうバスツアー2 (市内視察)

■第三分科会

場所：鈴鹿サーキット国際レーシングコース・ピット周辺
見る・聞く・感じるモータースポーツ体験 (見学・体験)

■第四分科会

場所：鈴鹿サーキットメディアセンター
講演会&パネルディスカッション (講師講演会)

■第五分科会

場所：鈴鹿サーキット国際レーシングコースVIPルーム
ビジネスチャンス交流会 (OB交流会)



今回は第三分科会と第五分科会に参加いたしました。しかし、レースクイーンのお姉さんが多すぎです。こんなにたくさん予算を使っていました。計画・段取りしていただいた鈴鹿YEGのメンバーありがとう！

第三分科会では普段では入ることのできないピット内に入ることができそして鈴鹿在住のモータースポーツ企業、各レースチームの方々がピットに自慢のマシンを並べてさらに、各チーム所属のレースクイーンのお姉さんが記念写真に協力してくれました。フェラーリ・ランボルギーニ・ポルシェ・レクサスなどの高級車の試乗もあり会場の皆さんは子供に戻ったように目が輝いておりました。鈴鹿のコースをバスで2週走りそのバスの横をレースカーが走り抜けていく体験もでき鈴鹿のレースを肌で感じました。

第五分科会ではレース観戦時には1席60万円もする「VIP」ルームに入ってきました。OBサロンということで日本YEGのOBの方々に会うことができ懐かしい同窓会のようにも感じました。

記念講演ではまず真っ白に煙を吐きながら走り去っていく2台のスポーツカーにびっくりしました。かなりタイヤくさかったですが……。講師にモータースポーツジャーナリストの今宮 純さんを迎えてモータースポーツの裏話や今までのモータースポーツと今後のモータースポーツのあり方など雑談も交えた講演でした記念式典ではなんと鈴鹿のコースの道路の上でじゅうたん引いて行いました。びっくりです。地元の鈴鹿YEGだからできたことだと思います。鈴鹿YEGの皆さんありがとうございます。ちょっと雨がぱらつきましたが大雨にならずよかったですね。

来賓の方々からも「鈴鹿のコースでやらずに体育館とかでやったら、とか言っていました。すばらしい。」とっておられた方がいらっしゃいました。

大懇親会では普段入れないピットの上のスペースで行われ青山プロ代と大会会長の櫛田浩哉さんが電飾オープンカーに乗って鈴鹿のコース上に搭乗、走り去りながら大会最終イベント大懇親会です。大会の花であるレースクイーンのお姉さん方が100人搭乗！もう時間があまりない全国大会のPRなど、盛りだくさん過ぎてデジカメの電池がなくなりました。

本当に鈴鹿の皆さんお疲れ様でした。ひじょーによくできた大会でした。大会会長さんお疲れ様です。やったものにはわからない達成感を味わってください。

そして何よりも伊藤委員長には、日本YEG企画委員長と鈴鹿大会実行委員長の2足の草鞋の辛さは分かっておりますが、素晴らしい一言に尽きると思います。本当に感動・感謝・尊敬いたします。

報告者 平成18年度日本YEG広報委員会 専門委員 岡崎YEG 河合 秀明

近畿ブロック大会

日 時：2006年9月8日(金)、9日(土)

場 所：奈良県大和田市

開催地テーマ：

「知る来るロード

夢NARA高田～オアシスをめざして～」



平成18年9月8日(金)～9日(土)、奈良県大和高田商工会議所青年部の主管により第24回近畿ブロック大会大和高田大会が奈良県大和高田市内に於いて開催されました。

8日(金)午後より近畿ブロックの役員会・会員総会・会長会議・前泊者懇親会が大和高田市文化会館さざんかホールで開催されました。

9日(土)午前中よりは記念式典・記念講演・分科会が大和高田市文化会館さざんかホール・その他で開催されました。懇親会に関しては市立高田商業高校で行われました。

今回開催地テーマとして「知る来るロード 夢NARA高田～オアシスをめざして～」を合言葉に近畿が一つになって盛り上がっていました。

1. 記念式典

記念式典では、各位来賓・出席者から祝辞を頂きその後19年度近畿ブロック大会開催地・19年度近畿ブロック代表理事の発表が行われました。

2. 記念講演

記念講演では、講師に財部誠一氏をお招きし「～中小企業のオアシスはどこに～」をテーマに自身の経験を踏まえ分かりやすく話しをして頂きました。

3. 分科会

分科会は7つに分かれて開催しました。

- ① 「まち」の潤いⅠではカリスマ添乗員平田進也氏とともに大和高田まちなかツアーを楽しみました。
- ② 「まち」の潤いⅡでは大和高田商工会議所青年部が立ち上げた高田の星の見学と昭和の名作のシアター上映会を開催しました。
- ③ 「あきない」の潤いⅠでは地場産業の河村繊維(株)・梅の宿酒造の企業訪問・工場見学を行いました。
- ④ 「あきない」の潤いⅡでは地場産業の三輪そうめん工場でそうめん三味株式会社 池利の企業訪問・工場見学を行いました。
- ⑤ 「れきし」の潤いⅠでは初代天皇神武天皇陵特別参拝と橿原神宮を参拝してきました。
- ⑥ 「れきし」の潤いⅡでは當麻寺の観光をしてきました。
- ⑦ 「さらなる」潤いⅠでは創業・経営革新挑戦支援フォーラムを大和高田さざんかほーるにて行いました。基調講演として鍛山親方(元関脇:寺尾)氏に「若手育成」「地域活性」に関して講演して頂きました。また終了後コーディネーターに山本浩之氏をお願いし、パネラーに鍛山親方・國枝恭二(日本商工会議所青年部会長)・吉田誠克(大和高田市長)・酒本昌彦(大和商工会議所副会頭)を招き「創業・経営革新挑戦支援」へのオアシスについて色々話をして頂きます。

4. 大懇親会

そしてブロック大会をはじめ各種大会においてメインである大懇親会です

会場は大和高田市立商業高等学校体育館で開催されました。懇親会においては、にて開催年に一度しか会えないメンバーとの交流、その時間を共有し相互のビジネス談議に花を咲かせ、また友情を深め有意義な時間を過ごしました。

また懇親会アトラクションとして在日中国雑技芸術団による一流の演技を見ることが出来ました。

今年度の近畿ブロック大会は午前中からの開催からにもかかわらず、北は福井県から南は和歌山県まで各種単会が参加し1,000名以上の登録がありました。また昼食の用意と多種にわたる分科会の開催など参加者の視点に立った事業内容でおもてなしの気持ちが伝わってきました。参加したメンバーは今回のブロック大会を通じて開催地テーマ「オアシス」を見つけて持ち帰ることが出来ました。

大会スタッフ、関係者に感謝の意を表し近畿ブロック大会大和高田大会の報告とさせていただきます。

中国ブロック大会

日 時：2006年9月15日(金)、16日(土)

場 所：岡山県総社市

開催地テーマ：

〝人としてどう生きるか、心の経営が
できているか、元気になってかえってほしい、



9月15日(金)・16日(土)の2日間に渡り、青年部中国ブロック大会が開催されました。中国ブロック内外より約1,000名の青年部メンバーが集まり、「交流と研修」を目的としたプログラムで行われました。

総社大会の開催地テーマは「人としてどう生きるか、心の経営ができているか、元気になって帰ってもらいたい」と3つの想いが込められた「人・心・元気」。1日目は中国ブロック内の会長による会議など諸会議が開催され、日本YEGと中国ブロック内会長による活発な意見交換が行われ、会場内は熱気に包まれました。会議終了後は今年で第20回目を迎える「神が辻薪狂言」の会場へと場所を移し、日本の伝統芸能を鑑賞し、初秋の恒例イベントを堪能し、1日目は終了となりました。

2日目は大会のメインプログラム、記念式典・記念講演・分科会が開催され、記念式典のオープニングではシンクライトーキングの佐藤竹善氏によるシークレットコンサートで華やかに幕開けをしました。会場は突然の佐藤氏の登場にどよめきと歓喜の声が上がっていました。記念講演は㈱船井総合研究所 船井幸雄先生による「世の中大激変、こう対処しよう。」と題して行われました。「経営コンサルタントの神様」と称される船井先生が、身振り手振りを交えながら経営のコツをわかりやすく、参加者へ伝授されていました。時折、会場からは笑いも起こり、非常にリラックスした雰囲気でした。

その後、会場を岡山県立大学へ移し、分科会として「中国ブロック大交流会～語ろう。笑おう。また会おう～」を開催。他県の青年部メンバーを年代別のテーブルに分けて、ディスカッション・懇親会が行われました。初めての企画ということで、参加者も少々緊張気味でしたが、中国ブロック内の同年代の仲間との話しとも合って、ディスカッションは徐々に盛り上がり、引き続きの懇親会でも同じメンバーでの交流となり、いつも以上に単会同士、また、メンバー同士での交流が深まり、互いに刺激を受けた様子でした。初めての企画でしたが、中国ブロック内の単会の距離が近くなり、今後につながる大交流会となりました。

来年は平成19年9月8・9日、広島県東広島市で開催されることが決まり、さらなる交流・研修を期待し、2日間の大会の幕を閉じました。



報告者 平成18年度日本YEG広報委員会 副委員長 岡山YEG 根木 克己

四国ブロック大会

日 時：2006年9月1日(金)、2日(土)、3日(日)

場 所：高知県高知市

開催地テーマ：

「維新前進 龍馬魂こじゃんとやるぜよ!高知、



平成18年9月1日(金)～3日(日)の3日間、高知商工会議所青年部の主管で、高知県高知市に於いて第23回四国ブロック大会高知大会が、盛大に開催されました。

1日目の1日(金)は、ホテルグランドホテルにて、前泊者懇親会が開催され、高知大会がはじまりました。日本YEG 出向者ならび高知YEG、四国ブロック内のメンバーとの、懇親を深め、高知YEGさんの手厚いおもてなしを受け、酒の飲み方も教えて頂き、夜遅くまで懇親会が高知市内で、行われました。

2日目の2日(土)は、朝早くから四青連役員会・臨時総会・会長会議が開催され、記念式典が、高知市文化プラザかるぽーとにて、大会テーマ「維新前進 龍馬魂こじゃんとやるぜよ!高知」の元、登録者550名にて、記念講演、四つの分科会が執り行われました。記念講演は、上村春樹氏が「チャンピオンの条件」をテーマに、リーダーの心得を、ご自身の経験を元にお話をして頂きました。第二分科会では「高知はこれで委員会」をテーマに、地元高知YEGの味本日本YEG副会長をコーディネーターにて、国家公務員の官僚4名の方々も又、後藤日本YEG推進会議議長もパネラーとして参加され、高知市長岡崎誠也氏もまじえ、活発な論議が行われた。又、第一分科会では、青木豊彦氏の講演、第三・第四分科会は、「龍馬探求」「企業見学」等で高知の良さを堪能した、記念式典等でありました。そして、場所をホテル日航高知旭ロイヤルに移動し、大懇親会が、味本日本YEG副会長の乾杯の発声により開演された。特別ゲストとして、矢沢エーキチ氏も登場し、開場は、大変に盛大になり、土佐流のもてなしを、最後まで参加者一同楽しみました。

3日目の3日(日)は、ゴルフ・高知市内観光のエクスカージョンが、開催され、四国ブロック大会高知大会が、閉会されました。

川北実行委員長をはじめとする、高知YEGメンバー一同のパワーと、もてなしの心に、感動と感謝を申し上げ、四国ブロック大会高知大会が素晴らしい大会で、大成功であったことを報告させていただきます。



報告者 平成18年度日本YEG広報委員会 岡山YEG 森 徹

九州ブロック大会

日時：2006年8月25日(金)、26日(土)、27日(日)

場所：福岡県大川市

開催地テーマ：

『飛躍への鼓動 飽くなき夢をもて、』



平成18年8月25日(金)～8月27日(日)の3日間の日程で、福岡県大川市内(ロイヤルパークアルカディアリゾート)を中心に九州ブロック大会が盛大に開催されました。

『飛躍への鼓動 飽くなき夢をもて』という大会テーマにて地元九州を始め全国各地より多数のメンバーが集い熱い大会が開催されました。

8月25日(金)には、九青連執行部会議に始まり、前泊者懇親会にて多くのメンバーと大会前夜にて大川YEGの心配りを請け。8月26日(土)大川文化センターにて大会受付から始まり、「九青連10周年事業」パネル展、4つの分科会が行われ第1分科会「ふるさとの夢」大川歴史探訪、第2分科会「偉人達の夢」佐賀歴史探訪、第3分科会「匠人達の夢」伝統工芸体験、第4分科会「飛躍への夢」講演会などOBサロン記念式典、記念講演、福岡うまいもん市、物産展、など本大会は九青連創立10周年事業と数多くの事業が執り行われ、日本YEG委員会「地域創造・支援特別委員会」はじめ日本YEG役員及び各委員会を含め第2回会長会議が開催され地域YEGと日本YEGとさらに深い相互理解の場となりました。記念講演では、『ガッツ石松氏』を迎え、興味深い講演が行われました。

8月27日(日)には、佐賀カントリークラブにて九州ブロック県連対抗「ゴルフコンペ」が開催され懇親会と3日間の盛りだくさんの企画にて大会が終了となりました、この文面をお借りし、あらためて大川YEGの皆さんの気配り、頑張り、熱意に感謝申し上げ報告と致します。



報告者 平成18年度日本YEG広報委員会 浦添YEG 東江 晴都

日本YEG後援事業紹介

サッカー大会

「商工会議所青年部 第4回全国サッカー大会 新潟大会」が主催、新潟県商工会議所青年部連合会で2006年7月1日～2日に新潟聖籠スポーツセンターにて、参加都道府県数15、登録数466人、選手数413人、チーム数24チームにて盛大に行われました。新潟県青連では主催者として全国より参加して頂く皆様に、精一杯のおもてなしをさせていただき、喜びと感動をお持ち帰りいただくため、スタッフ・選手・事務局の一人ひとりが情熱を込め、主催者として自覚と責任を持ち、精一杯取り組みました。

結果、多くのご参加頂きました皆様から、握手や感謝、ねぎらいの言葉を頂き、スタッフからも、素晴らしい大会となり成功したと感激で一杯となりました。

今後、この全国サッカー大会が青年部の全国的な交流を促進し、より一層の連帯を強固な物とする事業と確信しております。

全国サッカー大会実行委員長
新潟県商工会議所青年部連合会 直前会長
燕商工会議所青年部 監事

青柳修次



7月1日(土) 予選

予選 グループ A		勝点	得失点差	総得点	総順位		
古河YEG	3-0	1-0	1-1	7	4	5	1
群馬県連	0-3	2-0	1-0	6	0	3	2
FC.KIRARA	0-1	0-2	0-3	0	-6	0	4
村上YEG	1-1	0-1	3-0	4	2	4	3

予選 グループ D		勝点	得失点差	総得点	総順位		
上尾YEG	2-5	2-0	0-1	3	-2	4	3
千葉県連	5-2	3-0	5-0	9	11	13	1
千葉県連	0-2	0-3	0-2	0	-7	0	4
燕YEG	1-0	0-5	2-0	6	-2	3	2

予選 グループ B		勝点	得失点差	総得点	総順位		
日立YEG	2-0	4-0	0-0	7	6	6	1
福井県連	0-2	1-0	0-2	3	-3	1	3
新潟県YEG	0-4	0-1	0-0	1	-5	0	4
富山YEG	0-0	2-0	0-0	5	2	2	2

予選 グループ E		勝点	得失点差	総得点	総順位		
神奈川県連A	2-0	3-1	0-0	7	4	5	2
大町YEG	0-0	4-0	7-0	7	11	11	1
石川県連	0-2	0-4	0-3	3	-3	3	3
石川県連	1-3	0-7	0-3	0	-12	1	4

予選 グループ C		勝点	得失点差	総得点	総順位		
藤枝YEG	2-0	1-1	3-0	7	5	6	1
茨城県連	0-2	0-0	0-0	2	-2	0	3
長井YEG	1-1	0-0	2-0	5	2	3	2
亀田YEG	0-3	0-0	0-2	1	-5	0	4

予選 グループ F		勝点	得失点差	総得点	総順位	
群馬県連A	5-0	0-1	3	4	5	2
神奈川県連B	0-5	0-4	0	-9	0	3
新潟県連	1-0	4-0	6	5	5	1

決勝トーナメント 試合結果

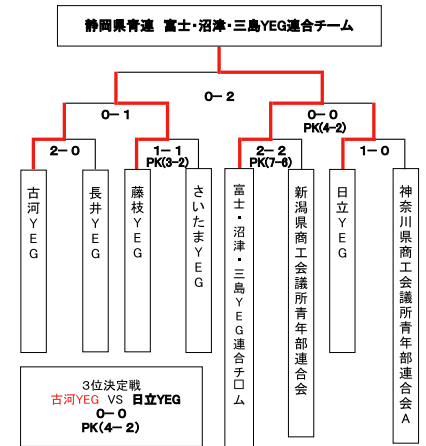
優勝: 富士・沼津・三島YEG連合チーム

2位: 藤枝YEG

3位: 古河YEG

敢闘賞: FC.KIRARA(刈谷YEG)

MVP: 中村 裕野(富士・沼津・三島YEG連合チーム)



組織・名称変更のお知らせ

組織変更等に伴い名称変更がなされた所が下記のとおりありましたのでご報告いたします。

組織変更

【旧名称】さいたま商工会議所青年部と岩槻商工会議所青年部 → 【新名称】さいたま商工会議所青年部
※さいたま商工会議所と岩槻商工会議所の2商工会議所が合併したことによる (平成18年4月1日)

【旧名称】松代商工会議所青年部 → 【新名称】長野商工会議所青年部
※長野商工会議所、松代商工会議所、篠ノ井商工会議所の3商工会議所が合併したことによる。

名称変更

- 【旧名称】宮田商工会議所青年部 → 【新名称】宮若商工会議所青年部
※市町村合併による地方自治体名の変更 (平成18年4月1日)
- 【旧名称】沖繩宮古商工会議所青年部 → 【新名称】宮古島商工会議所青年部
※市町村合併による地方自治体名の変更 (平成18年4月21日)
- 【旧名称】串木野商工会議所青年部 → 【新名称】いちき串木野商工会議所青年部
※市町村合併による地方自治体名の変更 (平成18年4月21日)
- 【旧名称】甘木商工会議所青年部 → 【新名称】朝倉商工会議所青年部
※市町村合併による地方自治体名の変更 (平成18年7月1日)
- 【旧名称】小田原商工会議所青年部 → 【新名称】小田原箱根商工会議所青年部
※国際観光都市である箱根の名前を商工会議所に加えることによる両市町の結束強化 (平成18年10月25日)
- 【旧名称】新湊商工会議所青年部 → 【新名称】射水商工会議所青年部
※市町村合併による地方自治体名の変更 (平成18年11月1日)
- 【旧名称】加世田商工会議所青年部 → 【新名称】南さつま商工会議所青年部
※市町村合併による地方自治体名の変更 (平成18年11月7日)

編集後記

気が付くともう冬ですね。夏の間には45号を出したいと思っていましたが、季節がたつので早いですね。別にサボっていたわけではありません。構想を練っている間にブロック大会が始まってしまい・・・(ー;)。本誌以外の広報は見えていただきますよね！ホームページ！メールマガジン！翔生のポスター版！日商広報誌「石垣」なども毎月発信しています。残りわずかになりましたが最後まで、全国のYEGメンバーとの架け橋として広報委員会は走り続けます。